

地球規模保健課題解決推進のための研究事業（日米医学協力計画）
「日米医学協力計画の若手・女性育成のための日米共同研究公募」
事後評価 課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名	ベトナムにおける鳥インフルエンザウイルスのリスク評価に関する研究 / Study on risk assessment for avian influenza viruses in Vietnam
研究開発機関	大阪大学 微生物病研究所
研究開発代表者	渡辺 登喜子
研究期間	令和1年9月1日から令和4年3月31日

○評価委員会コメント

強み：

- COVID-19の影響で SARS-CoV-2 にシフトせざるを得ない時期に異動も重なり大変だったと推察されるが、検疫から分離された H9N2 株 2 株の性状をきちんとまとめることができおり、評価できる。
- 日本に持ち込まれた H9N2 ウイルス（HE28-50 および HE28-57）の遺伝子解析しウイルスが Y280 系統に属すること、および、低病原性鳥インフルエンザウイルスに特徴的な HA 開裂部位（PSRSSR/GLF）を有することを示し、マウス、ハムスターで馴化することなく増殖することなどを示したことは評価できる。

弱み：

- 細胞感染実験、動物実験でインフルエンザウイルスの基準株が対照群に置かれていないため、分野外から見ると「感染性が高い」「タイターが高い」といった評価がどのようになされているのかが不明であった。また、観察された感染性の違い（Ck/HE28-50の方がCk/HE28-57より高そう）について遺伝学的に考察してもらいたい。
- フェレットを用いた感染モデルによる解析は、COVID19の影響で全く進展していない。新技術を前面に押し出している研究内容ではなく、旧来からの解析方法であり、インパクトにやや欠ける面がある。